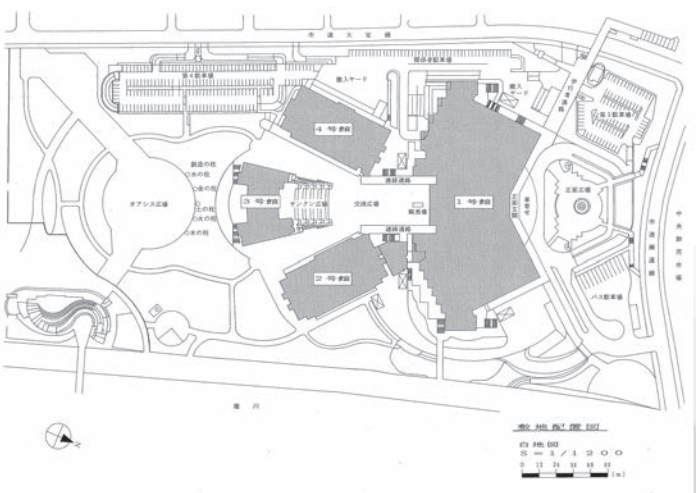
名古屋市、白鳥センチュリープラザ

白鳥センチュリープラザのコンサルティング業務は、名古屋市役所の中の廊下で、総務局企画部百周年事業推進室主査の榊原光明氏から声を掛けられたことから始まった。１９８８年、名古屋市１００周年事業の世界デザイン博覧会の会場として建設していたのが、白鳥センチュリープラザである。建物の設計は日建設計で進められていたが、建設後の建物の運用について、専門保守管理技術者及び一般利用者がどのように使用、運転、管理したらよいかと思索中であると、榊原さんから相談を受け、その業務にPESがそれに参画できるかどうかを問われた。会話を通じて、多岐にわたる使用用途に応ずる管理運営の難しさを克服するためには管理マニュアルが必要不可欠であるとの結論に至った。結果的にそれは「国際会議場管理運営マニュアル作成」という業務名でPES建築環境設計に委託された。建築における図書は、建築図、設備図、関連する図書から成り立ち、工事竣工後の管理は業種毎の施工業者による竣工図によっているのが、一般的である。その異なる種類の図面を、部屋の用途毎に総合的に一つにまとめ、その運用、利用、運転保守の管理用のマニュアルを作成する業務となった。名古屋市側担当の、榊原光明さん、川原雅博さんと共に、国立京都国際会議場、つくば国際科学技術博覧会、大阪城ホールなどを、訪問して、それぞれの運用の実状をヒヤリングして、業務の参考とした。

マニュアルは　1、管理者マニュアル　2、利用者マニュアル　3、保守マニュアル　4、図面集の、4分冊で構成されており、一般建築設備、特殊設備、舞台照明、音響設備等に分かれて利用できるものになっている。